庚申雜鈔　人名類

H 20
509

東京帝國大學圖書印

B 23475

000432847 2

△一曰真野氏、學于佐藤一齋、其方復本姓任厩橋侯、

三輪執齋

居江戸飯田町

澤村自三齋

執齋

為之丞

小濱平右衛門組徒士五番組

名希賢、称善藏、△

號躬耕廬、

寛保四年歿、年七十六

于京都

某

江戸日本橋白木屋彦太郎養子、早世

彦太郎

嫡為之丞弟ノ経間、白木屋主人

右當時珍說秘要録ニ見エタリ

細井知愼

知命
細井知愼、字公謹、号廣澤、思貽齋、蕉林庵、玉川、
（初辻氏、称新庵、号菊叢）号勝堂、称次郎太郎
○辻玄佐、京嵯峨人、仕掛川侯」葬等々力満願寺、「荏原郡」
知文、字天錫、号九皐、猶齋、雉澤
一作知常 吉保傳 葬等々力満願寺、
吉保傳云、元禄十一年、知愼受柳澤保明命、巡視諸陵、十二年月元
諸陵周垣記成、進、

古賀氏

○忠豊ー和作ー忠能

精里樸

穀堂燾、濤卿ー坤、元載

晋城煒、晦卿
冒洪氏

侗菴煜又燁ー茶溪增、如川

一子 茶溟、称小太郎

配 鈴木白藤女

	精里	穀堂	佩庵
寛政三	四二 入府	一四	四
七	四六 府儒員	一八	八
文化元	五五	二七 進物役兼教授	一七
○鍋島肥前守斉直立 ○二	五六	二八	一八
六	六〇	三二	二二 府儒員
八	六二 赴對馬	三四	二四
十一	六五	三七	二七 儒者 西黄
十四	六八 五月四日歿	四〇 世子傅	三〇
文政五		四五	三五
○鍋島貞丸 齊正立称 信濃守 十一		五一	四一
○十三		五三	四三
天保七		五九 丙申歿	四九
弘化四			六〇 歿

大槻磐水略系

奥州葛西氏属族
○大槻泰常 但馬守 天正十九年戦歿

……四世孫 久右衛門茂慶 西磐井郡大肝煎 ……清俊 駿太郎

孫 茂性 喜三郎

清慶 安左衛門 宗家 ……次孫 清準 民治 平泉

茂嘗 玄梁 分家 始為医

茂質 玄沢（受[illegible]前野良沢偏諱）磐水

茂楨 玄幹 磐里 、同分家 — 茂棟 早世

清崇 平次 又分家 磐渓 明治十一年歿

清格 格次 磐斎 — 清良

清修 如電

清復 文彦

[illegible]女 [illegible]玄之子約之妻

（右自家古墨蔵品展観目録抄出）

佐藤一齋

麻布六本木ニ墓アリ

「佐藤坦」

「梘新九郎、立軒」

天王寺ニ墓アリ

墓田録ニ不肖家ヲ嗣ガズトアルハ

モ一旦儒者ヲ捧シ罷メラレタリ）

「善吉 小鳥ヲ飼養ス

望月綱萬一郎、毅軒、才輔

「作剛

墓ハ立軒ノ墓ト同寺ナル由ナルニ見エズ

若山勿堂

信天院殿誠譽四勿居士

慶応三年丁卯七月十六日歿

麻布六本木高明山深廣寺

10 〈加製

青山氏

延久　六郎　仕佐竹義篤

口

延寧　居常陸礒原村

延友

道親

興道、子誠、清内、西塢、一谿
寶暦六年歿、年五十九
徙水戸、入史館

延彝、子好、二之進、瑤溪

延于、第三子、子世、量介、雲龍、拙齋、文宮堂

學于立原嵒

天保十四年九月六日歿、六十八

延光、伯卿、量太郎、畹翠、佩弦齋、春夢

明治三年歿、六十四

延壽、季卿、鐵槍

明治二十四年、七十二

三十九年歿、八十七

延昌、仲卿、（善書）早世

延之、叔翁、（儒者）早世

房、公齡

延年

延寿姪

延嗣夫

女存

森田專（出雲人）室

龍之助亡

（本姓宮次氏）

延嗣夫

延仁存

延敏

河田迪齋

惠迪院殺吉鑾猶興居士

麻布六本木

深廣寺

（加製

井部香山

香山井部氏　葛西因是門人

名鳴、字子寉、又字五華山人、蒼齋、

頸城郡西之島村人、居藥地、　中村敬宇曽在香山塾

養子
健齋

名見、字子龍、頸城郡梶村人、居藥地

孝太郎

住高田

ミネ
一元治元年生
小野鐵孺
悌二郎
スヱ
嫁小笠原氏
ハジメ
ミサホ夭
恒

10 (加製

上野潤齋

名廣、字胖卿、頸城郡中柳町村人、

中尾樗軒

老樗軒傳の研究　大和室

一、名人忌辰録上巻十六ウに

岡田平治郎　樗軒　本姓立野氏通称伊勢屋平次郎号老樗軒又読考庵墓所一覧の編者なり文政七申年八月十四日歿す歳四十六池の端宗賢寺に葬る

とあり。読考は読老なるべし。墓所一覧には考樗軒主人著とあり。序跋には樗軒又老樗軒とあり。逸人画史に荏土無帚老人とあり。

10 (加製

此より外氏名の徴すべきなし。

墓所一覧跋に河崎敬軒は樗軒が伊勢に遊びしことを言へり。

樗軒游于伊勢、寓余家、度會延佳墓在東郭妙見山、同往尋之、将上山、樗軒指右崖樹林云、恐在此中、到則果在、又北郭尋榮博士普齋墓、累々之中、先識剣一苔碣、亦果是、是甲戌三月十一月十二日之事也、

十一月は十二日の誤なるべし。甲戌は文化十一年なり。

「梱内記」は河崎敬軒、其父木工大夫復齋、敬軒の子松之允の筆に成れりと覚し。樗軒の事を言ふこと左の如し。

文化十一年甲戌二月二十九日、晴
八ツ時宮佐様帰宅田中池上より酒一升来

敬軒、名は善鄰、字は子文、宮佐と稱す、此日樗軒と倶に帰郷せしにや。

三月十二日、雨
善光寺江来、宮佐様山口行

同十二日、雨
朝良佑様山口より帰宅、吉田町江出勤、夫
より善光寺行、夜帰宅、
山口は山口凹巷即韓聯玉なり。此二日は上尺出口
延佳、杉木普斎の墓を探りぬと云へる日なり。
同十五日、晴
良すけ様、樗軒様、松之允墓さがし
同十九日、晴
おやぢ様樗軒様岡本より世儀寺行、良佐
様善光寺行

同二十日、陰、夜雨
良すけ様樗軒様他出
探墓の日は此等なるべし。
三月三十日、晴
良すけ様樗軒様佐八行
佐八は佐八神主なり。
四月十六日、晴
良すけ様樗軒様松之允伴ふ、帰りかけ人
よし田江寄
同二十七日、晴

標軒様餞別、鉏雨亭行

鉏雨亭は東夢亭養痾の処、夢亭、名は黎、
字は伯傾、號は悔庵、一學と称す、森氏頼
に

送中尾標軒　東恒軒　名吉尹 字君學

風流客蔭風流家、能以風流得聲華、臨
池丹青善鑑識、細辨眞假人稱嗟、嗚呼
君是好事士、又受延根向天涯、五十三驛如
織客、唯見此人戴烏紗、

の詩あり。此時の作か。

五月朔日、雨

標軒様出立

京坂に向ひしにや。

又十月八日標軒の贈りし硯松之允の許に到
りしとあり。江戸に帰りたる後の贈にや。

東夢亭の鉏雨亭随筆に

江戸中野師哉、嘗遊何崎従佑南帰、遂與
偕來、從吾社遊、性嗜古書畫、善鑑定、能
識諸名家姓字郷貫及歿日葬地、叩之響
応答、又有墓癖、終日尋碑剔蘚、偶得

一逸稟、如獲至寳、将編輯成書以垂後世、
と云ふも亦樗軒の事なり。中野は中尾の誤
なり。
翌文化十二年乙亥の驥蟲日記に
二月十六日好晴、訪仲尾樗軒、同遊飛鳥山、
官樹皆櫻、花時可想、王子村有稲荷祠、士
女賽禱相踵、熱閙不可近、王子權現祠
宇荒涼、老杉古梅、人皆不顧、過金輪寺、寺
主不在、野店閑潔、午飯而歸
と云ひ、七律五律各一首あり。

廿六日、雨、發東都、樗軒静冲送至大森村、
と云ぬ。静冲は淵静冲、越後高田の人、林崎文
庫にて北條霞亭に學び、當時鵬斎の塾に
あり。翌年文化十三年丙子に樗軒、敬軒、と下毛
古河に蕃山の墓を展せしこと、墓所一覧跋、
讀老庵日札に見ゆ。
敬軒は田必器と同じく御師の代官にて、年々
東下檀家を歴訪せしなり。驥蟲日記 河
崎松總之跋に
戊寅之春、先人罹疾于東府、輿而南歸、

是歳五月二十七日歿、執友閲遺稿、因出眎
其所著、腐宮略、楡塾日記及此七冊子、如伊
勢志草稾未脱とあり。
敬軒は文政元年戊寅五月廿七日歿すとなり。
畑内記に文化十一年に厄年の祝をなしゝや
うなる記事あれば享年四十六かと考へしに、
河崎松の受業録に五月廿八日敬軒先生
臨終作あり。
河埼良佐勢南人、病肺一朝欲須臾、志業
未成年卅九、愧稱文政太平民、

10（加製

讀書無復一經専、郡志将修猶未編、徒謂
老年了期業、而今何愬彼蒼天、
廿七日夜半廿八日早朝に歿せしにや。年は四十
九なりき。郡志は伊勢志か、其中の度會郡
志か。
一話一言に文化八年四月二日及五月二日の雲茶會
初二集に老樗軒蔵品を出しゝことあり。其中
「享保七年質屋仲間連判帳写」は自家の舊
物にて本郷六丁目伊勢屋三右衛門とあり。又
此時の識文あり。

文化八辛未五月二日東都老樗庵主人毫を
森川渡口の流に濺ぐ、
と署す。印は白文にて老樗庵とあり。是れ予
が所蔵なれど、青山堂所蔵の帖にも同文あり。
雲茶会第二集の時の物なり。然らば雲茶集
の

青山以前無青山、青山以後無青山、青山青山
大成殿後是青山、　森川漁夫

も樗軒の筆なるべし。森川は森川宿町本郷
六丁目伊勢三質店、樗軒の旧居にて、当時尚
此に住めりしか。又青山堂宛の書柬一通あり。

壬二月廿六日
老樗　舩
青山主人

壬二月は文化八年閏二月にて、舩は華押なり。
（右集古庚申第四號抄）

10（加製

老樗軒傳の研究（承前）

大　鉌　室

五

林氏の若樹文庫に『廣瀨六左衞門日記』といふ書あり、其第三十二冊、元治元年の條に、

老樗軒は本鄕六丁目喜福寺門前、書書店に伊勢屋三右衞門と云家號、中尾氏にて世々喜福寺門前の地面を所持す、樗軒六十餘齡にて歿（年號二月二日）谷中三浦阪上宗善寺に葬す、墓石に橫十爪の紋所あるよし、此人の代迄巨萬の家なりしが、家產を大いに壞りたりとぞ、樗軒は當時三右衞門の兄にて、立原翠軒、屋代輪池など朋友なりとぞ、當時も墓所草稿の帳面所持するよし、一覽の板木を賣却して家に無しと也、當時も書書古物を鬻ぐを業とするよし、（原文片假名交り）

同書三十三冊にまた、

老樗軒、俗稱伊勢屋平次郞と云、本鄕六丁目喜福寺門前、伊勢屋三右衞門の伜にて、讀書を好み、生質至て奇逸也、故に家業を事とせず、書書を好み、其居所を定めず、依て父の意に愜はず、其朋友なる、湯島天澤寺前なる、書肆の許に同居し、其頃朋友に、御成道なる書書店なども、老樗軒の食客にて有し時に此人の鑑定して開店せしとぞ、又接（やきつぎ）陶師孫兵衞と云者、後に俳諧師春樹と云者あり、是も知友にて、其初活計なく甚逼迫せし時、飴を鬻で過せしが、後には陶器破損を接ぐを業とせり、其後俳諧を以て世に聞へ、名を春樹と號す此者墓所一覽編述の時、多く奔走して補助せしとぞ、此編集の補助せしも四五人有しと也、樗軒生來酒を好まず、只甘味を嗜む癖ありて、本鄕より日本橋へ行迄に、凡一方金づゝ程の菓餠の類も喫たりとぞ、知己の分も皆酒を飲まず、大概甘庶味癖也しとぞ。樗軒一號觚庵、中尾信天と號す、自述する處の三冬偶記、諸家人名錄に右の如く署してあり、右の二書皆一卷づゝあり、偶記は小說にて全く一時の隨筆なり、人名錄は諸家の別號を輯錄せし也、樗軒後年迄湯島書肆越中屋文次郞方に寓居し、其家にて終れり、本鄕伊勢三方に而引取り池の端一向宗宗善寺に葬埋す（宗善寺後に谷中三浦阪に移）忌日は二月二日のよし、右の如く故、妻はあれども繼なし、遺書は　伊勢三の家に贈れり、妻は北里の娼婦也、此娼婦を妻とせしより老父の家と絕したりとぞ、老父も俳諧を好み、採茶庵梅人の流を慕ひ名を角子と號けるが、家產を破り歌妓を妻とす、此妓に私子（つれこ）あり、平次郞（伊勢三の嫡妻の子）を他へ出しより妓の子を嗣子とす、依て平次郞とは不和に成りしならん、今其嗣子三右衞門方に尋行ても、忌日を問ふに知る者なし、宗善寺の墓所を尋ぬれども法名を彫刻せず、年號支干更に詳ならず、中尾氏とある墓に、灌樹居士文政元寅十月廿六日とあるもの是ならんかと、暫くこゝに記し置のみ（今の三右衞門妻云忌日は二月二日也と）

と見ゆ、前者は最初の聞書なれば、後者の詳なるに及ばず、一方金の餠菓子を喫すること、日食蜜五合の東坡にも似ていとをかし、又同書三十五冊に、

老樗軒、伊勢屋平次郞墓、谷中宗善寺に有、本鄕六丁目伊勢屋三右衞門、九三〇（木爪紋）墓（可聞）向に同家の店の塔には、石の丸き花立有處なりと聞、

とあり、廣瀨氏は遂に索め得ざりしと見えたり、此宗善寺は眞宗にて、先代は黑川春村翁と交りありて翁の壙さへ設けられしと云、寺傳に據れば、舊と三河より德川氏に從ひ來り、聖堂附近に在りしが後ち池の端に移り、天保八九年の頃、更に谷中村（今谷中阪町二十九）へ轉したるにて、彼の宗賢寺は日蓮宗なり、唯其音の相近く、宗善寺の移轉を知らざる爲に誤りを生じたるなるべし、宗善寺は句讀の師なりし石川良山先生の墓あるのみか、族人山田增本兩氏の菩提寺なれば、之にて其過去帳を檢せしに、灌樹居士と云ふは、

灌樹　文化元寅十月廿六日　伊勢屋吉兵衞伯父喜右衞門伜

とあるものにて、其墓石も全く異なるものなり、

蘭香　文化八乙酉七月十五日　本鄕　伊勢屋三右衞門

とあるもの、老樗軒の父角子にて

是水　文政九辛巳年二月廿九日　伊勢屋三右衞門伜　平次郞

とあるぞ老樗軒にてありける。其墓は宗善寺本堂前の墓地の中程にて北に向ひたる墓石、地上より高二尺五六寸斗のものなり、表には數多の法名を三段に雕りたるが、樗軒の法名は其中には無くて、右側（向って左）に施主本鄕六丁目伊勢屋三右衞門としたる其の上の方に

釋是水居士　　俗曰平次雅曰樗軒
文政四巳二月廿九日

と明かに記されたり。大正五年六月二十五日雨そぼ

ふる日、ゆくりなく此墓を見出でつ、中尾氏今絶へ、其家より他へ嫁したる老婦の祀を守る由を聞きぬ、今は寺にても善く心得居らる筈なれば、志あらん人は詣り給へ。

六

老樗軒の著書、刊行のものは墓所一覽のみなれども、待刻のもの甚多し、墓所一覽與附に、老樗軒著述目錄として

諸名家墓所一覽　全一本出來

同　續　篇　嗣出

同　餘　篇　此書は江戸時代に名だゝる雜伎俳優娼妓及ひ聞人の墓所を蒐輯し旁らに其小傳を摭記しておもしろき好古漫錄の書なり

近世逸人書史　全一本

藝苑遺香集　此書は諸名士の辭世の詩及ひ和歌俳句を集め其人の年月及ひ法號をしるしたる書なり

書畵異稱便覽　全二本　此書は諸名士の別號及ひ庵號軒號を類字を以て集め書畵の檢索に便ならしむる書なり

掃　墓　餘　筆　此書は墓所一覽に表識したる諸名士の履歷をあらましに筆記して一覽に照覽すべき書なり

三　冬　偶　筆　全三本

讀　老　餘　編　全一本

の諸書を揭ぐ、廣瀨日記に三冬偶記とあるは三冬偶筆のことなるべく、諸家人名錄は即ち異稱便覽の事なる可し、別に偶目のもの二種あり、

藝　圃　小　傳　二冊

讀老庵　日　札　一冊

前者は藝林の士の小傳にて寫本にて傳はれり、若樹文庫に其原稿卷の二卷の三の二冊あり、流布本との異同未だ考へず。後者は隨筆にて國書刊行會本鼠璞十種に入る。近世逸人書史も亦續百家說林に入る、但し原本佳ならざりしと見え誤字甚だ多し。書異異稱便覽一冊、及ひ墓所一覽續篇稿本、いづれも藏して若樹文庫に在り、他は未だ管見に入らず

七

老樗軒は古本屋にはあらず、越中屋文次郎、即ち湯島天澤寺門前（今の春木町か）の書肆尾崎孔固堂の食客たりしかば、爾が誤り傳へしなりとの說もあれど、墓所一覽の序にも、其性耽奇好古、以鬻古圖書爲名、而不圖汲々其生業とあり、又た凡例に、乃產業之暇、東奔西走とあれば、質屋を出でゝより好める古本書畫などを賣買して計を作せしなるべし、且つ鋤雨亭隨筆に、吾社に從つて遊ぶとあり、敬軒も好學稱古之人と云へば、多少讀書もせし人にて、彼の耳食の人の徒に多聞を誇る如きにも非ざしならむ、其號樗軒も無帋も莊子に據りたるにて、讀老庵と云ふも老子をや喜びけん、父なる角子と與に筆染めし小帖、文行堂に藏す、

華は根に戾つて淸し雪の月　幽香亭角子（印）

印文國の字は讀めたれど他は芳字の如けれど不明也

水驛に宿りて

舟虫に竈よこれるさ浪かな　樗　庵（印）（印）

外に短冊

朧夜や今朝からさをる橋の人　角　子

裏に中尾三右衞門と署せり、又一帖

夕立や別に落來る山の水　老　樗（印）

印文鳳堂とあり、有合せの印を用ひし歟、或は斯く號せしにや、可考。

八

以上の材料を按排して改めて其小傳を記せば左の如かるべし、尙後攷を期す、

老樗軒　中尾氏、名は觚哉（鋤雨亭隨筆）號は無帋（逸人書史）樗軒又は樗庵（或は老の字を冠す）森川漁夫（雲茶會記）平次郎と稱す、父は本鄕六丁目の質屋伊勢屋三右衞門、俳諧を好み、幽香亭角子と號す、樗軒家を義弟に讓り、古書を鬻いで生をなす、鑑定を善くし、探墓の癖あり、墓所一覽を梓行す、未刻著書數種あり、文政四年辛巳二月二十九日歿す、享年六十餘と聞けど未だ考へず、谷中宗善寺に墓あり、法號を釋是水と云ふ

老樗軒研究附言

微　笑　小　史

以上の考證にて老樗軒の事全く明白なるを得しが就ては從來の失策談と今に猶解けぬ疑團とを擧げて以て附錄と爲んと思ふ。

余も全く其の誤りを信じたる一人にて幾度か宗賢寺へ徒足したるか知れず。ト云は忌辰錄のみにあらず大草公弼の書ける物にも樗軒名平次先父而沒葬于池端宗賢寺云々とあるまゝ飽迄も宗賢寺と信じたるにてありき。殊に今猶可笑思ふは其頃水道町に岡田平次郎と云人あり或は樗軒の子孫にてもあらんかと云所より掃苔會總代として余其の岡田氏を訪問した

る處一向子孫でも何でも無く甚だ氣の毒の思ひをしたりき。

以上の如き事共もこたびの研究にて皆明白と爲りしが。さるにても猶今に疑團の解けぬは大草氏といひ關根氏といひ揃つて誤りを書しは如何殊に不審なるは宗賢寺の過去帳にも伊勢屋三右衛門と確かに書しあり然らば同名異人ならんが寺も相距る遠からず名も宗善寺と宗賢寺随分間違ひさうなる次第にあらずや。

是に就て故五十嵐雅言氏は今一應宗賢寺を調べ度事ありと言ひ又故大久保葩雪氏は宗賢寺の外に於て少し調べて見度所ありと言はれしが今此二氏に今回の研究を見せたならば定めて喜ぶ事ならんにといと惜むべき次第になむ。(畢)

滕霞亭事蹟 二三

霞亭詩鈔續編、庚辰家集 辛巳家集を合本したる眞華中に左の如き文あり

文政四年辛巳二月壬寅余設詩畫筵於浪花西照庵是日來集者浪花百一十八人兵庫莵原及山田併百二十人紀泉及従本州東西併七十一人因圖其景象且賦其概畧以附俚詩一篇云霞亭先生の養父は坤山先生にして左の碑文有之候

先生諱謙字子讓稱退藏紀州人也本姓泉螯室

田氏故冐其姓室田故別所氏之爪牙及三木城
陥内匠君道光死之子孫隠舟上山下其後為醫
居兵庫先生承襲不墜家聲頗多奇術才敏學博
好讀周易傍及國學佛經莫不詳通又善書諸體
兼熟曾從平州紀先生而游平州嘗薦尾張侯
以母老不果往文化甲子二月廿九日歿享年五
十有五葬長傳寺内門人相議買石建碑

梧園先生（霞亭にも有り）
坤山先生墓
梧雄先生
三氏合葬

御尋被下候通リ小生ハ坤山ノ家ヲ継業致居候又雀亭
ハ坤山ナルカ賜阪氏ナルカ兼知不致候又文悼（不明）ト云
フ號ノ人アリ此レモ坤山ナルカ雀亭ナルカ不存サレ
トモ紀州ノ人トアリ梧園ハ一度咯血シテ死シ後蘇生
シタル人ト聞キ居候雀亭ノ畫所持致居候長傳寺ハ神
戸市兵庫西宮内町ニアル室田家ノ菩提寺ニテ石碑之
レ有リ候 十六瓣菊紋章ヲ刻セリ御室宮落胤ト傳ヘテ
レ候

○室田氏系譜略

別所則實 従五位下左衛門佐民部少輔室田新次郎始

メテ室田氏ヲ稱ス○赤松氏範ノ子松壽丸兒乙若丸ト共ニ父ノ遺言ニ依リ鹿児島ヘ落チ行途中播州路ニ於テ追手ニ掛リ分散赤穂郡室ノ庄ニ隠レ室田ト稱ス其子新次郎別所則忠ニ救ハレ成人ノ後長女ノ壻トナル大聖寺ノ城主タリ爾来別所氏ノ爪牙ナリ室田道光ノ時別所長治ノ三木城陥落シ道光死去子孫丹生山田ニ隠ル其子孫始メテ大阪ノ醫古林見宜ニ學ブ（古林ハ赤松氏範ノ子孫ナル故室田家ノ親族ナリ）其子兵庫ニ於テ醫ヲ業トシ門人ヲ養成ス入塾スルモノ甚タ多シ小生先代迄継兼セリ明治初年ニ

ハ俗ニ寺小屋ト稱セシ由

光實

光忠

道光　足軽大将トシテ三木城ニテ戦死

光尚　丹生山田明養寺満連社圓譽魯頓上人大和尚

清光　醫

道仙　古林氏ニ醫ヲ學フ

恕的齋　立軒又柳（不明）トモ、壽仙、兵庫ニテ始メテ醫ヲ業トス

道壽　源泉、京都ニ住セシ事アリ醫業ヲ継ク

法橋養軒　御室宮落胤、桃園天皇侍醫

蘭兮齋　榮庵、養軒ノ子息、醫、菊花紋章ヲ刻セル碑アリ

坤山　醫

梧園　醫

梧雄　醫

奏(不明)藏　養軒ト稱ス、醫、寺小屋時代ノ人

清一　十一歳ニテ夭ス

英哉

御室宮ヨリ法橋養軒ニ賜ハリシ宣德ノ香爐ト香嚢ア

リ

南無阿彌陀佛　舜(花押)

坤山書幅ノ題簽ニ二位公御筆ト書シアリ

大正十年三月廿三日

神戸市兵庫湊町一丁目

室田英哉

森先生

侍史

東條琴臺

高田藩ニ事フ

藩主榊原政令

1 政敦 ― 2 政令

3 政養 嗣 病身ニテ早ク退隠ス 娶井伊家女

4 政愛 弟 嗣

政禮 庶出 ― 5 政敬 嗣 養子十六才

琴臺ヲ延キシハ明史稿刊行ノタメナリ

政令ハ開国主義ニテ琴臺ヲ用ヒシカド藩ニハ伊部、木村等アリテ皆水戸学ニテ朱子ヲ守リ政令ノ命行ハレズ兵学ニハ宮川多門アリ国防ヲ論ズ

家老ノ首席中根ハ兵学武術ノ人ニテ家ニ道場
アリ歌ヲ詠ズ政令ト合ハズシテ退隠シ其子職
ヲ襲グ琴台高田ニ入リテ独リ此人ヲ見ル
ノミ其他ハ家老ト雖訪ハズ
加藤金平ハ砲術家ニテ高田ニアリ
修道館ハ東條ヲ首トシ市儒余不ヲ挙用シテ
之ヲ助ケシム
将軍家茂上洛ノ時榊原氏ハ琴台ヲ随行セシ
メムトシテ幕府ニ伺ヒシニ允サレズ
琴台ハ篤学ノ人ナリ開国ヲ唱ヘ経済ヲ説ク人
ニ対シテ恬トシテ謝金ノ事ナド言フ
琴台ノ碑ハ高田大手前ニ立ツ
右琴台門人清水廣博談 廣博ハ東
京市外原宿三五五ニ住ス

琴臺一
冒平尾氏
後復本姓

碑之所之
地為高田
城門外

東條琴臺

頃日ハ条鋑御教示ヲ蒙リ有難仕候
一平尾氏ノ實名ヲ下田ヘ申遣シ就キ取調候處
御賢察之通亨ハ諱ニテ全リ亨ニ有之候
一碑石ハ總丈壹丈五尺八寸巾四尺八寸碑文ヲ容ルハ
面高丈七尺八寸巾三尺八寸之ハ[illegible]
詳細ニ上置遣シ候事ト存候私ハ[illegible]字通
ヲ大ミニ承鮮明ナラズ[illegible]者ニ存
之候
一遅クモ四月下旬ヨリ揮毫ヲ始メ五月末迄ニ
彫刻同時ニ着リハ六月初旬ニ建設致シ度
豫定ニ有之候

一東條先生ハ開國主義ノ勤王家ニシテ國典ニモ
通暁セラレ漢學者カ國典ハノ講方ヲ講シルヿ
ヲ指的シテ笑ハレシヿ論義中屢々聞ケリ
由來經職家ニシテ豪放ノ人ニアラス而モ
農務ノ人ナリシ哉已在高田ニテハ從來ノ學
風ヲ矯メム爲メカ經職説ヲ西郡背テ唱導セ
ラレシ結果却テ野卑トモ云ヒ主鐵奴トモ
指目セラレシハ心外ノ事ナリシ當時高田ノ學
風ハ徹頭虚禮ニ流レ實用ニ遠サカリ經
職ヲ叫ヒセサル人ノ目ヨリシテハ此説ヲ奇ニ
リナラス藩士ニ向テノ講義若クハ講話ハ何
時モ此改正論ヲ深リ結局要路ノ無能

ヲ罵詈スルニ陥ルノ嫌ヒアリ返テ一般ノ忌ム所
トナリ疎遠主義トナリテ藩士ニ門生ノ如キ
モ之レカ爲メナリシカ如シ
程ノ當時若輩且淺學無識ニシテ先生ノ
論ヲ識ラハ鳥瀬ノ事ナカラ聊カ記シテ御
参考ニ供スルノミ

九年十二月十五日

淺水慶傳

關藤藤陰
爲國助、東京市外中野町字桃園三千三百番地

松崎純儉
称満太郎、号柳浪、
法諡 真龍院興雲日昇居士
嘉永七年七月四日没
葬浅草永住町 善立寺
従雑司谷共同墓地

印刷 奈良明新社

成島私道筑 修之、鳴氏、

小名巳之助、称忠八郎、

名信遍、文鳳卿、字子陽、文帰徳

号芙蓉、錦江、

実父　松平下総守臣李井金右衛門信休

実母　和州西江地今井筑後女

妻　細川采女正家臣剣五郎兵衛利定女

元禄二年正月丁丑日生于奥白川武蔵、山形、

宝永二年五月二十八日成島道雪養子

宝暦十年九月十九日歿、年七十二

高知堂製

法諡 祐妙院融三日觀寂藏

墓 本所本法寺塔中本妙院

右見聞卒九ヨリ引キテ隨觀抄ニアリ

道雲ー錦江ー龍洲 名和卿 忠八郎 ー衡山 名勝雄、字[illegible]、初名峯藏、[illegible] 称仙藏、

東岳 名司直、字邦之、一字[illegible]、称邦之助、圖書頭 ー筑山 名良讓、字倫卿、又字[illegible]、秋樹、称桓吉、後桓之助、

柳北 名温、字叔[illegible]、後名弘、字保民、一号確堂、称甲子太郎、[illegible]

本杉本氏

10 加製

丹羽行藏

名晨、一作晟、字叔卿、一字子行、称行藏、號雲氣

逸人、寛政十二年四月九日歿、葬麻布光林寺

號常、

印、外人那得知、

見丹雲氣逸人畫題壁詩并序、寶曆中所書

飯田忠彦

字子邦、初称要人、又刑部、後改左馬

父星見義十郎兼明、周防徳山藩士、

寛政十一年己未十二月十八日生、

徳山侯近習、

文政元年戊寅致仕、

養父 飯田謙介忠直、河内八尾人、

文政六年至江戸、

天保五年西帰、十二月仕有栖川王府、

十年冬為中宮寺宮門客、

為王府侍医、居夷川邸、号夷濱釣史、
一下幕府獄、
併居深草里、号黙叟、
萬延元年三月、櫻田變、事連於元彦、拘于伏見、割
腹死、年六十三、時
文久元年五月二十七日、葬京都何原町専修寺子
院龍源寺、
法謚　志信院黙叟理現居士、
養子　三重縣士永島三華三子文彦、

尾池氏

尾池文槃、字寛翁、号桐陽、初稱左膳、後以號行、丸亀藩醫也、師事中井竹山、所著有桐陽詩抄、子大鄰、世璜、大鄰號静庵、世璜、字玉民、號松濤、稱享平、龍野藩醫、學于菅茶山、與中島棕隱唱和、慶應三年九月歿、年七十八、所著有梅隱詩稿、穀似集、絶命詞曰、七十年來風月游、此生於世又何求、笑拋遺蛻供〔蟻〕螻蟻、轉覺吟魂去自由。

大鄰嘗寄文槃世璜詩于五山、乞評、

右讃〔詩〕岐雅人姓名録、三宗敦夫抄、

津久井清影

初平塚氏號飄齋

著述

耳塵録　五十九本

目埃集　百本

参攷雑録　五本

柳本碩水

名字嘉、字吉甫、稱謙三郎、一号天兒

肥前國彼杵郡針尾島江下里人、

父号養齋

母中倉氏

養齋 ─┬─ 端山 名後覺
　　　├─ 某
　　　├─ 字嘉
　　　├─ 某
　　　└─ 某

師 淺野鷄菴、廣瀬淡窓、草場佩川、木下韡村、

佐藤一齋、 月田蒙齋 肥後

10（加製

友
源欽齋、小倉金霜山、源潜庵、大橋訥庵、吉村
秋陽、池田草庵、尾崎修齋
右碩水先生古稀引翼録
明治三十四年、年七十、

10（加製

楠本端山

叔父学嘉 撰墓碑

山崎闇齋―三宅尚齋―久米訂齋―宇井默齋
千手廉齋―子　謙齋―月田蒙齋―端山

名後覺、字伯曉、橋姓、楠本氏、號端山、肥前國彼
杵郡針尾村端山里人、其先出自楠河州、祖宣惠、
名安長、仕平戸松浦氏、考養齋、名祗伴、母中里
氏、端山其長子、入平戸藩學、嘉永三年庚戌十二月

養齋致仕、端山嗣、四年辛亥遊江戸、受業於佐藤一齋、六年癸丑辰西帰、補藩学教員兼侍講、安政元年甲寅罷、葉山鎧軒請起、大橋訥菴亦徳遷、遂復出、進助教、文久二年壬戌正月命講経、除近侍、元治元年甲子進中老、嫡子格准小納戸頭、助教侍講如故、慶応三年丁卯冬藩主入朝、端山従焉、明治元年戊辰西帰、進番頭班奉行、除教授、二年己巳正月進大番頭奉行、教授如故、九月除参政、十一月任権少参事、十二月進権大参事、四年辛未正月命赴東京、七月廃藩、端山西帰、自此家居、

敬斎
源敬、

郷恤焉、明治十六年癸未春命前三日易簀、距生文政十一年戊子正月十五日、享年五十又六、葬于郷塋、配近藤氏、二男三女、二男俱夭、長女適千葉守義、次適中村克、季適濱本千之、嗣更常一男、名正翼、妻荘司氏出、承家、

嘉永四年辛亥冬見吉村秋陽、

五年壬子春見大橋訥菴、吉井藩新宮士敬璧門、敬齋公載於昌平、講論、小倉藩廣仝子、後與大洲藩川田徳遊講

諄

七月三十日起程、與士敬遊於島、

宮太柱

（大道ノ上

原安太郎（岩倉家ニ知ラル　貴族院議員、中雪明夫ト云

宮太柱、備後中條ノ医ノ子ナリ　太立ノ子太柱ナリ（蘭医　橋家ノ抱ナリ　江戸ノ何医ニテ名アリ

祖先信兼　南北朝ハ陰徳太平記ニ見エタリ

妹鍬子　太柱ノ子太ナリ　夫太フキマロ　小阪医ノ商人

太シゲ　嘗テ学習院ニ仕フ

太立ハ究ノ山ノ詩ヲカクベヒシコトアリ

太立ハ夢ヲナス　太柱承テ教ヲ立ツ　大道ト

云フ薩長以外ノ志士ヲ糾合ス

大道ノ上ニテ親兵ヲ組立テントス

外
五條ノケムザキニ居タリ　京都クラブノ上手ニアリ
山光輔ノ事件ハ明治四年ニテ大道派一掃セラレタリ
大林ダンサウ、深藏　後堀江芳介又物部音人
木乃ヨサス
大道
土
塩川
大本教ハ太柱ノ岩篩、鎮魂キシンヲ然ツ
右麹町区十年三番町四三宅武彦話

依田百川
├ 柴浦七 ─ 貞七 ─ 雄甫（養子） 陸軍教授
└ 百川（室存）
　├ 窕七　理学士千本福隆室
　├ 琴柱　伊東平蔵室、平蔵通伊太利語、
　├ 美狭古　嗣家、居新小川町
　├ 琳群（以下略）　歩兵大佐某七室
　├ 貞美（摩子）　通朝鮮語
　├ 花枝　陸軍少将某室
　└ 柳枝　實業家某室

中井敬所

名兼之、字資同、江戸人、

師外叔濱村藏六

益田遇所

自明蘇嘯民篆法入漢印、

居小石川無量院大島芙蓉屋、

私淑狩谷棭齋

師小島成齋澀江抽齋

著篆叢三卷

辛丑明治三十四年 七十一

10 (加製

高田忠周

字士信、號竹山

父慶山、幕臣、

癸卯 明治三十六 四十三

土方泰山

土方久元、称楠左衛門、号泰山、土佐人、世仕山内侯、父久用、母加藤氏、嘗遊江戸、入大橋訥庵門、又問兵法于若山勿堂、慶応中変姓名、称南大一郎、天保四年十一月四日生、大正七年十一月四日歿、年八十六、葬染井先塋、配田村氏先歿、二子、長稙熊、次久明、並久歿、久明子久敬嗣家、有泰山遺稿二巻、久敬住小石川林町六十二番地、

曲直瀨氏

正盛、字一溪、称道三、号雖知苦齋、又翠竹齋、

本佐々木氏、

宇多天皇、廿世、佐々木成頼、將監、〻〻親眞、左

門、配目賀多堀淨守摂津娘、是為正盛之父母、

生於京都、學近江守山天光寺、

永正十三年丙子十歳、從相國寺、名等皓、

享祿元年二十二歳、赴下野足利學校、師

文伯、又學醫于田代三喜、

天文十四年三十九歳帰京、称曲直瀨氏、翌

年還俗、

正親町院賜號翠竹院、

門下有施藥院全宗、秦宗巴、曲直瀬正琳、
文禄三年歿、年八十九、
二世正紹、称玄朔、號道三、
三世親純、称玄鑑、號道三、
三世 称玄淵、號道三、諡延壽院、、、、、、、、
十四世 称道策、△慶應三年見殺、年三十三、配綿子、※
十五世盈明、明治十六年歿、年二十二
行義枝、道策長女、山鹿旗之進妻、
蔦尾、道策二女、岡山縣人堀又三郎妻、
十六世正雄、實山鹿旗之進子、大正五年年十三、
〇
十三世正元、

△實六人部是香第二子、是香任美濃守、
※綿子歿年七十二、明治四十一年歿、號德
行院、明治四十一年四月一日刊行日本及日本人
有綿子傳、

右大正五年四月十五日刊行日本及日本人三枚光
太郎記
横濱市西戸部町八百八十八番地
山鹿旗之進

釋仙厓

筑前國博多聖福寺僧、世稱絶仙厓又博多人

佛、善畫、富田溪仙刊遺墨集二卷、

僧日亨

尾張名古屋ニ生ル　享保十江戸ニ出デ聖堂ニ入リ

顕本法華宗ノ大本山妙満寺主トナル

宝暦中海ノ宮公檀林ノ都講トナル

宝暦十年ノ山武那松之郷松崎山本妙寺ニ於テ五十六

ニテ寂ス

（前二巻ハ象数ナリ 末巻ノ太極論ニテ義理ニ入ル　太極即心）

著述　易学啓正　三巻

二教合璧論　五巻

ノ儒仏合致ヲ説ク

[illegible]

儒佛心性論衡　未見

烏石

親鸞上人一向宗ニ大師號ヲ奏請スト詐稱シ京商桑名屋三郎左衛門ヲ欺キ金八百兩ヲ受ケ中山大納言ニ説キ即内ニ堂宇ヲ建テ親鸞ノ像ヲ安置シ法安大師ト號ス諸司代酒井讃岐守檢擧シ中山ハ伊豫國宇和島ニ謫セラレ伊達氏アヅカル烏石ハ刑セラル桑名屋ハ追放闕所ニナル

右當時珍説要秘録ニ見エタリ

三井親和

梅孫兵衛

江戸ノ町奉行能勢肥後守深川三十三間堂ヲ再興ス親和舊例ニ遵ヒ圓通ト扁ス堂素千手観音ヲ安置セシニ今ハ代フルニ薬師如来ヲ以テス而シテ親和曉ラザリシナリ僧アリ見テ笑フ親和佛像ヲ更鑄セシム

右常時珍説要秘録ニ見エタリ

新武州金石銘類　写本一巻

雜

西四主人御蒐集

釋迦嶽雲右衛門、出雲人。

僧隆光、字榮壽、河辺氏、大和添下郡二條邑人、慶安己丑二月八日生、己丑秋歿。

小幡惟行、字君峰、学儒于林氏、学医于谷氏、右退出家。

櫻井山興、字常翁、号雪館、水戸人、寛政庚戌二月二十五日終、年七十六、祖雪寶、父等

10（加製

擴、女桂月、一名雲保、ヒサ秋山、葬靈岸寺。
櫻井綱、字孟壽、号雲鮮、大番同心、轉
学問所下番、文化八年十月十一日終、年
四十二、葬深川靈巖寺。
籠谷高照、元禄十六年六月十八日歿。
多賀信香、又朝湖、号曉雲、翠蓑、隣樵、
北窓、父白庵、京人、享保甲辰正月十三
日歿、年七十三、葬麻布承教寺、嫡一舟
嗣一舟、生一川、一川生一蜂、深川宜雲寺有
退筆塚、市野迷庵撰文。

高知堂製

新宮中書、文載先生。
橘茂甫、字君樹、号藏六、寛政三年辛亥、年
五十七、武藏葛飾人、祖道綜、父道壽、母岡
岡氏、故園藤氏、養從子彥、字東總
高野勝春、字大館、号白里、江戸人、寛文六年
丙午十月十二日生、享保十二年丁未五月十二日
歿、年六十二、葬葛飾東江寺、子惟慶。
僊承玄。
僊松雪元慶、宝永七年七月廿一日歿、年六十三
内藤庸信、号調布庵、崎玉人、其先丹州八木

城主内藤備前守宗勝、寶暦四戌年、年
六十四、女壻川伊蔦

太田澄元、字子通、号太洲、本藤永氏、祖先
奉仕福井侯、高祖罷、作医、父玄浩、字篤
英、学于松岡恕庵、従之為本草家、澄元其第
二子、少居本庄北溝、兄弟五人、前女、嫁杉山養
元、次柳洲、次澄元、次女適人、季養三、夭、
寛政七年十月十二日歿、年七十五、葬本庄太法
寺、所著神農本経臆断、本草綱目示
蒙、本草臆断、救荒本草臆断、崇広随

筆、字郊、試方、鞭草餘論、鄭草臆断、配岡
野氏、無子、養外甥元立為子、夭、次養表侄
世孫為子、元劍、藏牛島寶山、號田興盛

井通淵、字子叔、号蘭臺、江戸人、牛御前右座
齒碑、井純卿撰文、宝暦八年戊寅立、

井上岳、字彦卿、号大淵、父名勝口、母佐藤氏、世
仕尾之芋生、岳学于淡渕、如栗名徐南宮氏、
娶林氏、號洞律、年四十餘、開塾江戸、安永戊
戌三月三日病歿、距生享保戊申三八翻五十一年、
葬牛島弘福寺、嗣子壽、字大女、季子夭、二女皆夭、

能登守藤原政陽銘之、
桃遊隆、字仲良、其先勢州飯高郡人、父為春、
号量翁、従江戸淺草、娶小栗氏、三子、伯三
盛、仲道隆、季全先、道隆譲家季弟、居福井坊、
号深栄庵、字子平元珪、道隆二子一女、以矢、
養石見守濃縣坂根氏源藏為子、既号東園
居士、宝暦庚辰十二月二十八日病歿、年七十四、
葬牛島弘福寺、所著三百年暦、異字同訓、
源藏、字子深、仕松江侯、道隆墓、後藤世均
銘之、

橋貫、字道一、号石峰、京都府人、江戸医、其
先出于阿州、寛政三年八月二日貫病歿、于骨
島、年五十六、葬牛島弘福寺、配西田氏、先
歿、女四人、長適中村氏、
林泰義卿、号東溟、石見吉見族、称神田林氏、又
林氏、学徂徠派、安永九年庚子九月廿五日歿、年七
十三、子宏本珍寛敬、弘福寺、
古郡長寛、字公綽、学于太宰純、曾祖重政、縣
州縣宰、祖重近、父長賢、騎士、長寛寛延己
巳正月九日歿、年三十四、葬弘福寺。

建綾足、字孟喬、家保足生江戸、号涼岱、又
寒葉斎、創片歌、花山宮賜片歌道主称、安
永癸巳往京師江戸、甲午三月十八日歿、年五十六、
謚知足院即心是空居士、文万葉〇於福寺。
山井景命、京師人、父景視、大神惟季十九世孫、
景命叙従五位上、任安芸守、罷、仕岡崎公子三
季君、至江戸、文化乙丑七月七日歿、年三十四、
葬浅草誓願寺、木母寺碑、
称津元、字子負、号蘭玉、江戸人、歿時年二十三、
木母寺瘞硯、

鈴木恭、字表卿、号小蓮、父雅、字文熙、号芙
蓉、又号老蓮、信濃人、卒年二十五、患麻疹歿、
享和三年六月二日墨堤歿、瘞遺稿柳島妙見廟
側、小蓮歿時、雅遠遊北帰家、君已葬矣、涙花
葛覚撰文、巻下任書、
加藤千蔭、字徳與、麻呂、橘姓、号芳園、又芳宜
園、称又左衛門、出于西院大臣諸兄、衛右肥後
守永愷、蘿髪曰能因、永愷生判官景貞、景
貞称加藤氏、居勢州、十世孫正景光、仕北畠
氏、居寺村氏、七傳至孫左衛門景之、五世又

左衛門枝直為与力、枝直子千蔭、天明八年
罷、有布花集、文化五年九月二日歿、年七十四、
葬本庄回向院、前配深谷氏、後配鄰範氏、
各生二女、一適三村氏、餘夭、義子直蔭嗣職、
三村氏名観雄、

冢田大峯　佐藤識　雑

作詩質的　写本一巻
冢田虎著
雕窩居手稿抄　写本尼　詩説
佐藤識、号硯田、又尚古斎
後越御銘集　写本二巻
鷲峰釈歡勵普潤輯
竜堂釈寔歡壹法閲
先有岡時倚将所輯扶桑碑銘集、
緇我、初君、慧海、五十嵐禎前、

勝之。六郎桂翁。号成章之。片原元鱗。字
仲勉。号呉盛。父後明。字方德。元城以第二子嗣。
天明四年甲辰十一月六日歿。年三十九。子主善作画。
次主慶為医。
秋月舟。名法雨。文化元年正月七日
寂。年四十八。岩田処卿。字忠治。号洲尾。文化十
三年八月廿二日歿。年廿五。
釈歡南。名慶誓。佐
藤次作忠信。

豆州志稿人物編　秋山章
僧白隠、駿河人、明和五年寂于駿河原驛、創伊豆竜
澤寺、
江川太郎左衛門、小字芳次郎又邦次郎、名英龍、英
毅子、享和元年生、安政二年正月歿于江戸、五十五、
中根若思、字敬夫、号東里、稱貞右衛門、但馬人、
明和二年歿于相模浦賀、七十六、
竹村茂雄、熊坂村人、宣長門人、弘化元年十二月歿、七十六、
土屋述作、字子明、号三餘、稱宗三、那賀郡中村人、慶応
二年歿、五十二

10 高知堂製

福井時雍、字聖民、号雪水、称耕作、朝川善庵門人、明治
三年歿、五十七
中村正直、小字釧太郎、後敬太郎、父武兵衛、宇佐美村人、
天保三年生江戸人、明治二十四年歿、六十、

温知叢書解題
向山篤、称源太夫、号偶堂、又識斎、黄村父、歿于北海道
宗谷、
手柄岡持、平澤平格、晩改平荷
小山田與清、早苗翁祖父、弘化四年三月廿五日歿、六十五、葬
霊岸寺中霊哲寮、
菊岡沾涼、名房行、号崔下庵、称藤兵衛、伊賀上野人、
居神田鍛冶町、延享四年歿、年餘、葬浅草誓願寺、子晴
行舎布仙、
山岡浚明、字子亮、号梅橋、称左次右衛門

石川雅望、號宿屋七兵衛又五郎兵衛、小傳馬町旅店、天
保元年閏三月二十四日歿、七十八、
瀬田貞雄、字士雄、号松杆軒、称源五郎、寛政八年十月四
日歿、八十一、
中神守節、称順次郎、号梅竜園、
森山孝盛、称源五郎、号蘭窓、居赤坂清水谷、
中井誠之、字叔貴、称忠蔵、号積庵、謚貽範、播磨龍野
人 ─積善 誠之宝暦八年六月十七日歿、六十六、
─積徳
松崎尭臣、字子允、又左吉、号白圭 ─維時、字子黙又君修、称才蔵、号観瀾

三宅緝明、字用晦、号観瀾、称九十郎、京人、居江戸、
小川顕道、称又右衛門、号笠舩孫
馬場文耕、一作文助、称馬文耕、

10 （加製

茶家印譜人名

尭然親王、妙法院座主

道晃親王、聖護院座主、号照高院

近衛信尹、号三藐院、杦公

近衛家熙、号豫楽院

烏丸光広、烏有子

有鄰軒輔信

木下長嘯、天哉

伊達吉村、獅山

稲葉正喬、容軒、含章

片桐石見守、三叔宗關
松浦鎮信、天祥庵
小堀遠州守、大有宗甫
小堀大膳正之
小堀權十郎政尹、篷雪
小堀政延、後正信、又政恒
小堀政房、安常、花伴
小堀政峯、重次郎
小堀政方、長松庵、宗友
小堀主水政昌、政方之子

10 加賀

小堀關平政榮、政昌弟
松平不昧、大圓庵、一々齋、宗納
松平月潭、蹈庵、宗潔
酒井宗雅、一得齋、拂袖、尾花庵、琴流
柳澤保光、獄樂庵、堯山
三宅康高、吟雪庵、了關
朽木綱貞、寂了庵、星橋
朽木昌綱、龍橋、宗非
田村村資、不滯庵、駒月庵、螢雪庵
片桐宗幽、一法庵、實齋

杉木普齋、瑞夢、
三宅亡羊、松明
元伯宗旦、隠翁
良休宗佐、随流齋
原叟宗佐、覚々齋
天然宗佐、如心齋
件翁宗旦、啐啄齋
好雪軒宗佐、了々齋
石翁玄室、不見齋
柏叟宗室、認得齋

甫竹、居泉州堺、
里村紹巴、臨江齋
石川丈山、詩仙堂、圯氏重之
瀧本坊昭乘、松花堂
豊蔵坊信海、孝雄
光悦、自徳齋、大虚菴
空中齋
佐川田昌俊、臥輪子
僧一絲、文守、丹山
僧元政、泰堂、稱心菴、霞谷

岡本半助、無名翁
淀屋古庵、介庵
雛屋立圃、鏡山、日祐
三谷友佐、洛東散人
縣宗智、玉泉子
緒方宗謙、浩齋
緒方光琳、惟富、方祝、日受
緒方乾山、權平、習靜堂、紫翠
遠藤元閑、廣長軒
運圓、改房

山田宗徧、不審菴、周學
山田宗引、留學
山田宗圓、紅學
山田宗也、漸學
志村三休、無事菴、初三樂
伊佐幸琢、半々菴
久田宗也、不及齋
岡村宗恕、時習軒
三谷宗鎮、不偏齋
櫻井宗休、南溪、

歡以、暮庸軒、寥々庵
田中圓齋、光休、當向
大森枚信、甘古齋
松尾宗二、樂只齋
藪内紹智、宗堅、燕菴、竹陰
伊丹宗朝、黙守菴、萩軒
神谷松見、久圓、時習軒
川上不白、孤峯、圓頓齋
川上宗什、一指亭
川上渭白、亭々菴
宇佐美黙齋、昌益、止々菴

富士村上派

角行藤佛 元祖

日旺 二世

旺心 三世

月旺 四世

月心 五世

補猶光清 六世

光照 七世

照永 八世

身祿侚 伊藤伊兵衛、伊勢川上人、居江戸巣鴨、

入定于富士山、三女、梅、萬、花、基在駒込海蔵
寺
田邊十郎右衛門　伊兵衛入定時貴水、為富士山
御師、
源譽觀智、淺艸極寺開祖
錦屏、新井白石、源璵
中西淡淵、名維寧、字文邦、称曽七郎、門下
有紀徳氏、
才牛、二世團十郎、
翠兪、才牛妻

徳辨、三世團十郎、早世
和田烏江、称庄大夫、久世侯臣、廣澤門人
日重、一如、元和九年寂、
日乾、字孝順、号寂照、堀本氏、寛永十二年
寂、日重弟子
遠乾、重之弟子
日遠、字堯順、号一道、石井氏、京人、父了玄、
二兄了程、了俣、日遠寛永十九年寂、
○
白隠　駿河原駅人、長澤氏、明和五年十二月

十一日寂、八十四、諡神機獨妙禪師、竹著
槐安國語、闡提記聞、息耕録、普說、荊
叢毒蘂、国字法語、遠羅天釜、粉引歌
假名葎、法嗣遂翁、隱峯通禪師、龍
澤、東嶺、延慈、松蔭、元盧、居鶴林山
松陰寺、

○

隱元 名隆琦、本林氏、名德龍、字在田、明福州
人、諡大光普照禪師、承応三年来東、延
寶元年寂、八十二、黄檗開祖、

○

佐久間柳居、初長水、又麥阿、寛延元年歿、六友
素丸、宗瑞、蓮文、咫尺、門人烏酔、太無、門瑟、冬
溪、嵐門
白井烏酔、上総人、初西奴、居三解庵、後松露庵、明
和中歿、門人太明先歿、
太無、松籟庵
古川秋介、常陸人、初吐花、号多少庵、安永三年歿、
抱山宇内瑟、嗅上門 瑟同号 小宮氏、武藏人、居本所
敲氷、平橋庵、在甲斐、

望月巻阿、浮色著、武蔵人、居牛込
尺五、如雪庵、居甲斐、

○

向
春向、名福、齋藤内蔵助利三女、母稲葉刑部少輔
通明女、通明備中守通則子、一鐵兄也、福嫁稲葉
佐渡守正成、生丹後守正勝、七之丞正定、内記
正則、為徳川竹千代家光保姆、

○

富森助右衛門、華龍、春帆
大高源吾、子葉

大石良雄、西就鳶
高盈膿、嵩谷子、英林
高島玄札、負徳門、

右者「禮儀小言」中儒者之葬祭ニ関する著書ヲ列挙セル者ニテ文書目録考證之處著書數多有之候得共田舎ニ付僅ニ通書而已上候

國喪正議（室鳩巣）

火葬論（稲葉黙齋）

愛敬篇（佐藤一齋）

右ハ葬義書中ニ存之候 一齋之愛敬篇ハ是非ニ參考ト成候

本邦祭儀（佐藤質義）

10（加製）

喪祭儀（柴野栗山）
喪祭俗議（中村習斎）
慎終通考（中村惕斎）
追遠通考（仝上）
慎終疏節（仝上）
祭薦巻（三輪執斎）

大正七年八月七日　井上哲次郎

森林太郎殿

江戸儒医評判記中

三井親和、字孺卿、号竜湖、称弥兵衛
伊藤益道、字子行、号華岡、称善蔵
澤田鱗、字文竜、号東江、称文治
松山敬知、字伯義、号天姥、称源蔵
中川天寿、字大年、号酔晋、称長四郎
屋代師道、号竜岡、称与右衛門
関寧、字子永、称源蔵
平林惇徳、字子孝、号淄日子、称荘五郎
藤信、号竹岡

岷陵

柘植季渠、称忠兵衛

河保壽、字子員、號中臺

細井知文、字天錫、號九皐

京儒　文化中歿

「清田元基、冒伊藤氏」

「縉〃伊藤錦里

「綬〃江村北海

「絢〃清田儋叟

「勉〃清田竜川、大太郎、謙藏カ

中野傒、季文、竜田、三郎カ

小栗文之進

名絢
名愿
名成章

限時百詠人名

清田君錦、儋叟
皆川伯恭、淇園
富士谷仲達、北邊
共作、事見于淇園撰北辺碑志、
時宝暦戊寅、北辺三十六、淇園三十、儋叟更
長若干、
源一、公百、京人、寛政乙卯序之、和州別駕
内田龍、子潛、寓于京、長門人、又乙卯序（跋）之
寛政九年巳二月發兌、自星都書林西村平八梓

高知堂製

○村尾元融、源右衛門、遠江人、濱松藩醫官、
有續紀考證、

○佐藤元萇、明治三十年八月七日歿、葬淺草松
山町正覺寺

○皆川淇園故宅、傳云、今近重眞澄所居、京都
市上京區中立賣新町東入、新町通與上長
者町之間、猶有竹林、近重詩云、予所居傳為
淇園先生故宅、御所咫西絶世譁、猗々綠竹付
蝦蟆、三千弟子雖無在、猶似當年處士家

鷹羽龍年、字瀑翁、號雲淙、蒙唱庵、好々蒙褐、稱
主税　（又蒙唱洞

龍維岳

山本显、

蒔田必器、號暢齋、又虎山、善書、

正住隼人

小俣蠖庵、又號栗齋

上部光齋、號坦齋、善画

右伊勢人

村井古巌、大阪書估、納書林崎文庫、
蓬莱尚賢、與古巌納書者、

伊勢鷹羽雲淙詩注

古森義三、痴雲
神田八郎、梅園
福井帯刀、端隠
巳住隼人、蓬丘
榎倉靱負、杉齋
尾崎平馬、雪溪
飯田久太夫、竹外
奧山中書、金陵
春木左門、雁渚

松田右衛門、葵亭

古森善右衛門、葛山

川上源十郎

荒木田守訓、井面氏

荒木田守雅、春霞、守訓子

蒔田必器、暢斎、彪山

小俣蠖庵、栗斎

山本邕 鷹羽集跋

龍維孝 鷹羽集載之儥

渡邊秀石 逸然門人 宝永四年歿年六十九 墓在長崎深崇寺

—秀朴

秀岳

某—某—某—某—秀實 字元成、号鶴洲

石崎元德 小原慶山門人—某—某 養嗣—某 融思

向井元仲 墓ハ春德寺カ 此家ノ墓又晧台寺ニアリ

○獨立墓　長崎興福寺ニ墓アリ

○カピテン妻ノ浮世絵　西山徙ノ贊アリ
大正五年長崎浮世絵展覧会ニ出

○文字峰 ― 田山ニテ遠ノ愛宕山
所謂十二景ノ二

庫輔

○譯　元喬、(伯遷)梅塢、藝国老宰(銘心録)

荒木喬、字伯遷(師友志)又子遷、号李渓、通稱善右衛門、攝州池田人

疑似

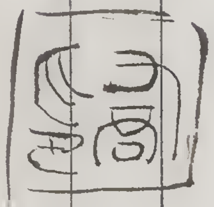
服元喬、字子遷、南郭、京人

品川忠喬、字遷甫、称衛守、安藝人

津島喬、出于六如集

「雲為山態度、水借月精神」

引首印「只有梅花□清絶」

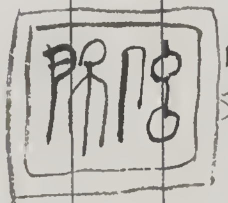
梅塢「 」共朱文

僧印月

「巫峡寒濤動地風」

「僧印月

朱文



白文
」

高知堂製

狩谷棭齋 一書ノ奥ニハ高橋真末トアリ年月ヨリ
推スニ十六七歳ノ比ナリキ
本葵 神道佛教ニヨラズ皇国ノ昔ノ俗ニ随ヒシ定メタル
ナリ津和野ニアリキ
元服 貴賤ニハ幕末マデアリキ 齋昭ハ家斉ノ烏帽
子親トシタルナリ
岡本况齋 マレテノ者也石濱忠息傭書ノタメニ訪問シ異
本多クキニオドロキシコトアリ
右丁巳四月八日松本愛重語

12 高知堂製

咀華

幽香來伴北窓眠籬落先秋已索然不獨霜叢存苦節孤高會得傲炎天

暑菊

汲古

山室俊

子孝

閒中至樂

春階升吉

Yasu tika

赤舊若早

一五

高知堂製

天若不愛酒。酒星不在天。地若不愛酒。地應無酒泉。天地既愛酒。愛酒不愧天。已聞清比聖。復道濁如賢。賢聖既已飮。何必求神仙。三杯通大道。一斗合自然。但得醉中趣。勿爲醒者傳。

嘉永庚戌首夏之朔七十八翁竹嶋散人

翰墨游戯　竹嶋隱人

高知堂製

石見不明の人々

其二

二山彌三郎 義方

斯文源流に、其先石州津和野坂崎出羽侯の浪人と云ふ。江戸に住すとあり

金山重左衞門

菅茶山大和紀行に「金山は津和野（中略）用達の人也」とあり京都寺町六角下る升屋の別亭にて茶山を見る用達の人と云へば津和野人にはあらざるべしも不可知

當世珍說要秘録

大岡忠相野田又藏ノ算術ヲ試ミ一ヨリ百テ二ニテ除スルヲ以テ又藏算盤ヲ請ソ

舊津和野藩士　佐田紳（號鷗潭通稱忠藏）（安永頃）

柿本大夫廟

廟宇臨西海、明禋照四時、和歌千載祖、
帝者兩朝師、情盡松間月、調高霧裡詞、
遺篇長不朽、風雅大名垂、

同藩士　神代雪堂（通稱次郎兵衛）

妹山秋月

屋上妹山秋色娟、晩風吹散百家烟、

10 （加製

菊花未發知何夕、鎌月高懸重九天、

信夫信五郎題祖弼槐軒

堀内雪堂 濱臣門人

長野清良

大冢孝綽

ユカ女、作名取ノ日記、享和元年ノ辛酉八月一日發仁ノ赴陸

奥、

原義胤、竹谿、

川口文碩より御傳言之旨申來候就審御座平
穩欣慰々々小生も此節は可也平穩と申樣に
御坐候先日都筑九郎右衛門得拝顔候よしは
なし承候藤苑の御高和有之候由拝見奉希
候小生詩餘り出來不申候此詩机辺に有之反
古同樣ゝ事に御坐候へども入貴覽候何事
も期拝眉候頓首

五月廿日　霞

春來土木御院主樣御多忙奉察候

右廣島井原市次郎藏

10〈加製

紫巌講略　木蓉室、村尾泰軌

大燈国師宗峯妙超、山城国愛宕郡紫野龍寳山大徳禅寺開山、播磨人、紀姓、浦上氏

五山

建仁寺　榮西

南禅寺　無關

東福寺　聖一圓尓

天竜寺　夢想

相国寺　春屋

徹翁、名義亨、出雲人

高知堂製

虎渓、名道壬

一休、名宗純、後小松庶子

古渓、名宗陳、越前人

澤庵、宗彭、春靄翁、暮翁、但馬出石人

江月、名宗玩、泉境人、津田宗及子

鉄舟、名宗鈍、

欝外、名宗信、住武州赤坂種徳寺、宝暦中

人徹、名宗斗、東海寺、

鉄舟、名宗崑、武州人、東海寺、寛政中

慶光院

守悦 ― 智珪 ― 清順 ― 周養 ― 周清

周寶 ― 周長 ― 周貞 ― 周榮 ― 周香

周興 ― 周億 ― 周恭 ― 周昌 ― 盈子

利敬

守悦　其系詳ナラズ十八歳ノ時剃髪シテ尼トナリ紀伊熊野ニ居ス屡神宮ノ地、往来シ宇治畑町ノ離天堂ノ殿屋ニ勤行セリト云フ

明應四年洪水ノ為宇治橋流失、守悦諸国ニ勧進

レテ之ヲ造進ス
後奈良天皇天文二十年　清順宇治橋造替ノ功
ヲ賞シ居室ニ慶光院ノ號ヲ聴シ上人號ヲ賜フ
代ヽ神宮ノ造営遷宮ノ事ヲ執行ス
寛文九年両宮正遷宮ノ時ヨリ神官ノ訴陳ニヨリ
遷宮ノ執行ニ与ラザルコトヽナル
明治二年寺號ヲ廃シ宮橋氏ト称ス
明治三十六年慶光院ニ復姓ス

「田安徳川家譜」抄

田安三代
齊匡　一橋治済五男

文政三
一橋権大納言従二位治済入道穆翁　宝暦元年生
田安権中納言従三位斉匡

田安四代
齊荘　将軍家斉十二男　一橋八代　昌丸
文化六年己巳六月十三日生　幼名要之丞
天保七年丙申八月廿一日襲封
同十年己亥三月廿二日襲尾張家
弘化二年乙巳七月六日卒　諡源懿
葬于名古屋建中寺

一橋七代
慶壽

一 齊莊 田安四代
文化六年己巳六月十三日生 幼名要之丞
天保七年丙申八月廿一日襲封
同十年己亥三月廿三日襲尾張家
弘化二年乙巳七月六日卒 謚源懿
葬于名古屋建中寺

将軍家斉十二男 一橋八代
昌丸

一 慶壽 一橋七代
文政六年癸未三月四日生 幼名房之助
天保九年戊戌五月廿四日襲一橋之封
同年十二月十五日移于一橋邸
弘化四年丁未五月七日卒
謚巍休院 葬于凌雲院

一 慶頼 田安五代 一橋八代 田安八代
文政十一年戊子十月十三日生 幼名群之助
天保十年己亥三月廿三日襲田安之封
文久三年癸亥正月十八日 降官奪一等
還任二位中納言 且老
明治元年戊辰五月廿四日 被加藩屏列
再襲封

一 壽千代 田安六代
家達 田安七代

水府歴世諡號

威公　頼房

義公　光圀

粛公　綱條　　靖伯　綱方

成公　宗堯　　恭伯　吉孚

良公　宗翰

文公　治保

武公　治紀

哀公　斉脩

烈公　斉昭

順公　慶篤　　弟　節公　昭武 — 武定子

定公　篤敬

圀順

十二行　兪製

徳川将軍家慶時代

峯壽院　小石川
徳川家斉第七女峯姫（実名美子）
水戸斉脩簾中、落飾後峰壽院ト称ス

松榮院　神田橋
徳川家斉第十一女浅姫（実名溥子）
松平斉承（福井）室、落飾後松栄院ト称ス
（ハシメ伊達周宗ト婚約、周宗逝去ニヨリ再縁）

晴和（光カ）院　大手向
徳川家斉第二十五女喜代姫（実名都子）
酒井忠学（姫路）室、落飾後晴光院ト称ス

誠順院　一橋
徳川家斉第二十六女（永姫）（実名賢子）
一橋斉位簾中、落飾後誠順院ト称ス

阿部外亀雄氏ノ家系

初代 隼人 正容（カタ）

二代 靫負 正依（ヨリ）

三代 長門守 正利（トシ）
従五位下 御小姓組番頭

（家老内藤景堅（八代）同内藤景晁（九代）ノ
実父ナリ）

四代 靫負 正淳（ヒロ）

五代 隼人 正純（スミ）

内藤景堅 安政四年八月四日ノ日記中ニ 某九月
実家甥隼人儀駿府御加番ニテ御出ノ留守
中ニ右之通トアリ

六代 直之丞 正學（タカ）

七代 外亀雄 （現代 鉄道院技師？）

「愚兄伊原忠三郎筆記ノ写

阿部正容ハ本家五代備中守正邦ノ末子幼名百之助後改隼人
正徳五年三月兄正福（ヨシ）（六代伊勢守）所領ノ内分受廣米五千俵
列寄合、嫡子主膳病死二男靭負嫡子トナル正容宝暦十年辰八月
十八日筋違橋御門番被仰付明和元年申閏十二月二十一日靭負初テ
御目見申上年始五節句月並登城願之通被仰付同七年寅四月
二十三日正容虎ノ御門番被仰付安永二年巳四月廿日正容願之
通隠居被仰付名遊山ト改ム家督靭負被仰出同年十二月二十二日
靭負ハ家督ノ御禮申上同八年亥四月二十七日上野火ノ番首尾能
御免被仰出」

……コトヲ禁ゼラレ直方ト改称ス後又実名ト通
称トヲ并用スルコトヲ禁ゼラレ実名正学ヲ
用ヰタリ
先般御下問ノ隼人ノ家ナリ 現主外亀雄ノ
養父ナリ 外亀雄ハ東部鉄道管理局
技手奉職

六代　直之丞　正學（タカ）

七代　外亀雄

（現代　鉄道院技師？）

「愚兄伊原忠之郎筆記ノ写

阿部正容ハ本家五代備中守正邦（ノリ）ノ末子幼名百之助後達
正徳五年三月兄正福（ヨシ）（六代伊勢守）ノ所領ノ内分受度
列寄合、嫡子主膳病死二男靭負嫡子トナル　正容宝暦
十八日節違膳阿門書面被仰付　明和元年申閏十二月二十一日

No.

阿部

直吉

元直之丞ト称ス維新後官名ヲ名ニ用キルコト禁ゼラレ直右ト改称ス後又実名ト通称トヲ并用スルコトヲ禁ゼラレ実名正学ヲ用キタリ

先般御下問ノ隼人ノ家ナリ　現主外亀雄ノ養父ナリ　外亀雄ハ東部鉄道管理局技手奉職

月　日